

事業内容:防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
 学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名:実践的防災教育総合支援事業(命の大切さを考える防災教育公開事業)
 (避難所対応)

自ら社会とかかわり, 自他の命を大切にする児童の育成
 ~仲間とともに学び合う活動を通して~

所属・電話番号:佐倉市立根郷小学校・043-484-1031

校長 石井 喜広

1 実施事業

- (1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施
- (2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

2 事業概要

- (1) 学校が避難所になったときの体制づくりを行う。
 - ①避難所対応マニュアルの見直し
 - ②地域・関係機関との連携会議
 - ③児童の避難所における在り方(役割・意識)
- (2) 児童の発達段階に応じた防災教育
 - ①防災教育の教育課程への位置づけ
 - ②避難訓練の実施
- (3) 防災教育の取組の公開
 - ①市民防災訓練への参加
 - ②授業実践の公開

	○安全確保対策会議	職員・保護者 地区長等
8月	○教育ミニ集会 【講師】 市役所防災防犯課	職員・保護者 地域住民
9月	○第2回担当者連絡会議	関係担当者
10月	○地域合同防災訓練 【10/19】	職員・児童・ 地域住民
11月	○防災教育公開事業 【11/15】 【講師】学識経験者	職員・児童・ 保護者・地域住 民
12月	○緊急地震速報を活用した避難訓練	児童・職員
1月	○防災訓練(火災) ○緊急地震速報を活用した避難訓練	児童・職員 児童・職員

3 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○防災訓練(地震想定)	児童・職員
5月	○交通安全教室 ○第1回担当者連絡会議	児童 関係担当者
6月	○緊急地震速報を活用した避難訓練	児童・職員
7月	○緊急地震速報を活用した避難訓練	児童・職員

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	浅沼 浩	千葉県教育庁北総教育事務所指導主事
2	山田 真史	佐倉市教育委員会指導主事
3	秋葉 良一	佐倉市役所防災防犯課副主幹
4	河野 明男	根郷小学校PTA会長
5	石井 喜広	根郷小学校校長
6	小川 英昭	根郷小学校教頭
7	小石 聡史	根郷小学校教諭

5 具体的な取組

本校の具体的な取組として、以下の活動を報告する。

- (1)避難訓練
- (2)安全確保対策会議
- (3)市民防災訓練
- (4)命を守る学習(公開事業)
- (5)その他の活動

(1)避難訓練

本校では、通常の避難訓練（一次避難から二次避難まで行う）に加え、コンパクトに一次避難のみを行うワンポイント避難訓練を行っている。



特に、教室等から集団で避難する形態ではなく、休み時間等に児童が自由に過ごしている時間に訓練放送を入れてその場で一次避難をする訓練を行った。



「廊下にいるときに地震が来たら、窓ガラスから離れて身をかがめる」「校庭で遊んでいたら、校庭の中央に集まって座る」な

ど、命を守るためにまずしなければならないことを繰り返し実践させることを通して身につけさせるようにしている。

(2)安全確保対策会議

本校では、学校・保護者・地域が連携して児童の命を守っていくことを具現化するために各代表者が集まり、情報交換、共通理解をしている。

①開催日時

7月、12月の第1木曜
18:00より

②参加者

- ア 地区代表(自治会長、区長)
- イ 学区子ども会代表
- ウ P T A校外指導役員
- エ P T A本部役員
- オ 学校支援ボランティア団体会長
- カ 学校職員
 - (ア)管理職
 - (イ)安全主任
 - (ウ)生徒指導主任
 - (エ)地区児童会担当

③内容

- 根郷小の安全教育に対する取組の紹介
 - ・避難訓練
 - ・登校指導
 - ・交通安全教室
 - ・不審者情報

○地域での児童の様子

○学区内の危険箇所

学校の安全確保に向けた取組を地域に広め、地域での児童の様子を教えていただくよい機会となっている。

学区の自治会長や地区長さんは、お子さんがすでに大きい方が多く、学校に足を運ぶ機会もほとんどないが、お話を聞くと地域での児童の様子をよく見て下さっており、この話し合いの機会は学校と地域をつなぐ貴重なものとなっている。

(3) 市民防災訓練

① 市役所への児童参加の依頼

毎年、市内小中学校から1校が会場に選ばれ実施されている市民防災訓練が本校を会場に実施された。

市役所防災防犯課が主催し、自衛隊、消防署、市内各種企業の協力により、炊き出し、救助訓練、非常食の試食等様々なイベントが行われている。

通常は、地域住民を対象とした訓練であるが、せっかくの機会であるので、本校の5、6年生児童の効果的な参加ができないかを考えた。避難所を開設するような非常時に、高学年児童が避難所運営の一戦力となるような事前の学習の機会と考え、防災防犯課に当日の5、6年生児童の避難所運営の疑似体験を要請した。

その結果、当日は避難所が開設された折に使用する段ボール製の間仕切りを組み立てる活動と段ボールベッドの組み立てを行うこととなった。

② 訓練当日

【避難所設営体験】

事前に教頭から5、6年生に今回の訓練の趣旨と当日の体験内容を説明して参加者を募った。また、保護者向けにも文書を配付し、協力を要請した

当日は、30名の児童の参加があった。はじめに、非常時の避難所となった時に使用する段ボール製の間仕切りの組み立てをした。児童は、お互いに協力しながら次々と間仕切りを組み立てていった。

赤い面と青い面が交互に接するようにして間に接続の棒を差し込み長くつながっていくと、児童も感嘆の声をあげて喜んでいた。



次に、避難所で使える段ボール製のベッドの組み立てを行った。



実際に、布団を敷いて寝る体験も行い、避難所の生活の一端を味わうことも行った。

【その他の訓練】

児童は、各ブースで行われている訓練にも参加をした。

煙体験、非常食試食、救助犬の紹介、簡易担架の体験等、各種体験をして、様々な視点から非常時に役立つ知識を身につけていった。



③参加児童の感想

- ・もしもの災害の時に一人一人が災害に備えることを理解して地域で協力することは大切なことだと思います。
- ・災害の時に自分にできることを探して手伝いたいです。いつ災害が起こってもいいように準備したいです。
- ・非常時の道具がどんなものなのかあまり知らなくて、家でもそのような話をしないので、家族と災害時にどのようにしたらよいか考えたいです。
- ・災害救助犬の救助訓練に参加しました。小屋の中に隠れていたぼくを救助犬がにおいをかぎつけてさがしあてました。救助犬は鼻がすごくいいんだなと思いました。

(4)命を守る学習

11月15日、防災教育公開事業として、2, 4, 6学年での授業実践を教員、地域、保護者に公開した。

①2年生の実践

道徳の授業で「生命尊重 3-(1)」を価値として展開した。主教材としていもとようこさんの絵本「かぜのでんわ」を使い、東日本大震災で受けた心の傷をいやす電話ボックスの存在、それを設置した佐々木さんのインタビューなどを示して児童に命の大切さを考えさせた。



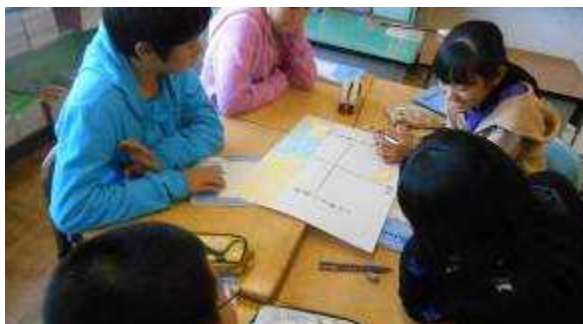
② 4年生の実践

総合的な学習の時間の学習で、「地域安全マップを作ろう」という授業展開を行った。学区内の防災防犯上危険な場所をフィールドワークで調べ、本時は手分けして調べたものの報告会を展開した。報告会后に、命を守るにはどうしたらよいか、自分の考えを書かせた。



③ 6年生の実践

総合的な学習の時間の学習で、「いざというときに」という単元で非常災害時に公助に頼るだけでなく、まず自助、そして共助が可能なことは努力していこうという意欲を持たせる授業を展開した。防災防犯課の担当者からの自助の大切さに関する説明の後、自分にできることとできないことをワークシートを使って弁別していった。



④ 講演会

今回、避難所対応がテーマであったため、講演会講師に、東日本大震災時に塩竈市立第一小学校の校長であられた竹田幸正先生をお迎えし、ご講演をいただいた。



(5) その他の活動

① 学年集会

本校では、PTAが主催し、各学年が様々なテーマで親子で学習する機会を設定している。これを学年集会と呼び、今年度は2年生で「防災」をテーマに防災防犯課の方のお話や起震車による地震の疑似体験を行い、親子の防災意識の高揚をねらった。



ほぼ全員の保護者参加のもと、非常食の話や防災倉庫に入っているものの紹介、地震体験をし、低学年から防災に対する関心を高めた。保護者からも、防災倉庫の中身の紹介や災害時に関する様々な情報を聞いたことに対するよい感想をもらうことができた。



②教育ミニ集会

毎年実施されている教育ミニ集会でも今年度は防災をテーマに取り上げ、学校職員、保護者、地域の方が集まり、意見交換を行った。

はじめに佐倉市役所防災防犯課の担当者から佐倉市の防災に対する取り組みについて講義をいただき、その後グループに分かれて意見交換をした。



本校の教育ミニ集会は、近隣の小学校2校と中学校1校との合同開催であり、地区の社会福祉協議会の協力も得て実施している。約100名の参加があり、グループ討議も熱心な話し合いとなった。

特に、「自助、共助、公助」については、阪神淡路大震災の事例をもとにした話から災害直後は公助で救助される割合はごくわずかであり、家族や近所の方に救助されることがほとんどであるという説明があり、各家庭が非常時に向けてどのような準備、心構えをしておけばよいか、各家庭の実践や反省をお互いに話し、充実した情報交換

を行うことができた。

6 成果と今後の課題

【成果】

(1) 児童

日々のワンポイント防災訓練により、児童がすぐに自分の命を守るための対応ができるようになった。また、授業展開を行った学年については、命の大切さを改めてじっくり考えることで、自分の命は一人の命ではない、そしてたくさんの人に守られていることを感じる事ができた。さらに、6年生は、非常時に自分にできることは何かを考える機会を得て、自分の命を守ることにも留まらず、まわりの人の命のことも考えることができた。

(2) 地域・保護者

学年集会、市民防災訓練、教育ミニ集会等保護者や地域を対象にした行事を行うことで、保護者や地域の方の意識の高揚にもつながった。学区の自治会や町内会には防災対策に熱心なところも多く、学校が防災教育に力を入れていることを認めてくださり、より一層連携が深まった。

(3) 教職員

東日本大震災から3年以上が経過し、改めて防災意識を見直す良い機会となった。授業展開をして新しい教材を開発したり児童とともに専門家から知識を吸収したりすることができた。

【課題】

- ・地域や行政との本格的な連携の元年となったが、これ以後どのような方向で連携を深めていくか。
- ・非常時に実践力のある児童を育成するための系統ある指導計画の作成。